

# 能登ヒバとは？



✓ 製材したアテは「能登ヒバ」と呼ばれています。防腐・抗菌作用のある「ヒノキチオール」を多く含むため、伝統的な工芸品から建築物、建築材や家具材として、様々な場面で使用されてきました。

## 能登の森林と木材産業の今



✓ 能登半島地震及び奥能登豪雨災害で、山腹崩壊・土砂流出等は100箇所以上、林道等は2,000箇所以上、木材加工流通施設は30箇所以上の被害を受けました。

✓ 奥能登地域ではライフラインの復旧が遅れる中で担い手が減少し、森林組合等は災害復旧等への対応が要請されています。

✓ 「能登ヒバ」の生産基盤は大きく損なわれており、生産量の回復には時間がかかる見込みです。

## 能登ヒバサポーターと創造的復興プラットフォーム



✓ 今、能登の林業・製材業・木材業の関係者は、懸命に災害の復旧・再建等に向けた取り組みを進めていますが、甚大な山林・林道・製材所等の被害を前に、息の長い取り組みが求められています。

✓ そこで、能登の林業・製材業・木材産業関係者との新たな協働・共創を促すための「プラットフォーム」を創設しました。今回、このプラットフォームの取り組みとして、本セミナーを開催いたします。



### 講演者プロフィール

#### 亀井 順一郎 氏

能登森林組合 代表理事組合長

輪島市出身。昭和57年 石川県森林組合連合会入社。  
石川県森林組合連合会 理事、石川県木材利用推進協議会 事務局長等を歴任。  
令和4年 能登森林組合 代表理事組合長 就任。

#### 網野 禎昭 氏

法政大学デザイン工学部教授

1967年静岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒業、東京大学大学院修士課程修了。1996年に渡欧し、スイス連邦工科大学ローザンヌ校にて、Dr.sc.tech.取得。同校助手。この間、林業から建築の意匠・構造まで一貫して考える視点を学ぶ。ウィーン工科大学教員を経て、2010年から法政大学デザイン工学部教授。専門は建築構法、木造建築設計。一級建築士事務所ストラクチャ共卒。日本や欧州の中山間地域を訪ね歩き、山を豊かにする建築のあり方を模索。主な受賞歴に、2005年オーストリア・シュバイクホッフアー賞、2022年グッドデザイン賞金賞（パウマイスターの家）、等。

#### 長澤 悟 氏

東洋大学名誉教授・教育環境研究所所長  
国立教育政策研究所文教施設研究センター客員研究員

1948年神奈川県生まれ。東京大学卒業、同大学院博士課程修了、東京大学助手、日本大学工学部教授、東洋大学理工学部教授を経て現職。専門分野は教育施設、地域施設を中心とした建築計画。教育方法の変革、地域の核となる学校、木の活用等をテーマに、教職員・PTA・地域住民・子どもたち等が参加する計画プロセスにより全国各地の学校づくりに関わる。主な受賞歴に、日本建築学会賞【作品】（長野県浪合学校）、日本建築学会賞【業績】（福島県三春町の一連の学校づくり）、等。木と建築で創造する共生社会実践研究会（A-WASS）会長。

#### 鈴木 康史 氏

株式会社社長谷萬 執行役員 開発本部長

1972年千葉県生まれ。東京木場の材木屋が発祥の現職にて、木質建材、木造住宅、木の家具・什器など、木材に関する様々なプロダクトを開発。前職では木造住宅メーカーで軸組工法や丸太組工法など住宅商品や工法を多数開発。現在は北海道や秋田県など木材の産地と連携して、ローテク木質素材「DLT」の普及やサプライチェーンづくりに取り組んでいる。

### お問い合わせ

株式会社社長谷萬（担当 黒田）  
TEL 03-5809-8577  
E-mail kuroda.yuta@haseman.co.jp

※ 本セミナーは、「アテ林業・能登ヒバを活かした能登の創造的復興」リーディング・プロジェクトのうち、「能登ヒバを活用した DLT 制作トライアル及び DLT プロダクト開発・普及」の一環として行うものです。